

議事録

会議名：第37回中四国学生剣道連盟理事会

- 日時：2011年5月14日PM1時31分より
- 場所：愛媛県坊ちゃんスタジアム・第5会議室
- 構成員：38名
- 参加者：湯村正仁、渡邊道德、小倉 肇、藤原崇郎、木原資裕、榊 康守、福井悦郎、河内 泉、大城戸 功、村井慎治、山神眞一、石井博貞、境 英俊、香川直己、廣畑栄三、宮本理幸、矢野宏光、月本翔太、小原啓示、工藤圭司、明石靖子、近藤秀俊、菱川創太、香川修慶、上田祥平、上田晴加、太田浩貴、山村 彩、吉田幸平、坪内昭紘、高橋琴美、大野泰史、比田勝康至、松木佑輔（以下委任状により出席と見做す）草間益良夫、竹内善一、上田祥平、比田勝康至以上38名オブザーバーとして、近藤裕樹、森 正典

上記の通り、全体の3分の2以上の出席があった為、本会議は適法に成立した。慣例に倣い会長の湯村正仁を議長として議事が進められた。

● 記 録

氏名：菱川創太

E-mail：info@chushi.xsrv.jp（不明点はこちらへ）

Summary：

- 議題1：第35回&第36回理事会議事録確認
- 議題2：先輩理事追加について
- 議題3：幹事会報告（リーゼミ報告・選手権・優勝大会・オープン大会・その他）
- 議題4：全日理事会報告
- 議題5：全日本学生剣道オープン大会について
- 議題6：次回の審判員割り当て及び個人戦における指導大学等の審判交代について
- 議題7：平成22年度決算案、平成23年度予算案
- 議題8：全剣連「剣道有功賞」について
- 議題9：剣友会（中国学連剣友剣道大会）の予定
- 議題10：その他

議事

1. 第35&36回理事会議事録確認

第35回理事会議事録の6. 平成23年度大会についての日程の内、全日本女子学生優勝大会の日程が11月6日であると訂正がなされ、確認議事録が承認された。

2. 先輩理事追加について

報告者：石井博貞

愛媛県推薦理事の矢野先輩が聖カタリナ大学から高知大学へ転職されたため、後任の愛媛県推薦理事として愛媛大学OBで税理士事務所の所長をされている河内 泉先輩（愛媛大学・昭和53年3月卒）が推薦され満場一致で承認された。尚、矢野宏光先輩は会長指名理事に変更された。

3. 幹事会報告

報告者：月本翔太

(1) リーゼミ報告

- ・リーゼミが3月の2週目に行われ、詳しい報告書に関しては中四国学生剣道連盟ホームページにアップしてありことが報告された。
- ・リーダーズセミナーにおける各大学参加者へのアンケートにおいて主将、副主将でなく、1年生や主務が多く参加していたことが明らかとなったと報告された。リーダーズセミナーの趣旨より、リーゼミには主将・副主将が参加するという内容を文章化することを常任幹事会および幹事会において提案し承認されたことが報告された。

湯村会長より学生間での連絡・引継ぎを徹底するように注意を頂いた

先輩より主将・副主将が参加できなかったときの各大学へのペナルティを検討することを推薦され、今後の幹事会で検討することとなった。

(2) 選手権大会の報告

- ・幹事会においてChallenge Cupの必要性がないのではないかという意見が出たことが報告された。昨年は男子参加者9名中6名が徳山大学、今年について女子は広島大学2名のみで、参加大学が偏り、参加数も減ってきているという理由でこの意見が出されたと報告があった。
- ・昨年より必要性は無いと感じており、大会の役割は果たしたのではないかとの意見が出された。
- ・学生からも条件に当てはまる学生が少なく、必要性はないのではないかとの意見が出された。
- ・山神先輩より、スタート時点のChallenge Cupの意義が説明され、既に当初の目的は果たされ、大会も役目を終えたとの意見もあり、来年度からChallenge Cupを廃止することが決定した。

(3) 優勝大会

- ・優勝大会の幹事会を廃止する事で、抽選方法について問題であったが、大会実行委員からの提案があり、抽選はパソコンによるランダムな抽選を行う事が提案され、決定したことが報告された。
- ・必要な情報はメールで各大学に連絡する予定であることが確認され、報告が終わった。

(4) オープン大会

- ・学生主体に大会準備・運営を行い、また全日や県の剣道連盟とも連携を図りやすくするため、学生による大会実行委員会の設立をし、大会実行委員として広島大学より1名（越智拓也）が就任した。

(5) その他

- ・東北学生剣道連盟への義援金について
東北地方太平洋沖地震の義援金が学食一食分をコンセプトに行う事が4月の幹事会で決定し、選手権大会時、学生より集めることが報告された。また、先輩方にも義援金のお願いがなされた。
湯村会長より義援金の詳細についてのご質問があり、各地域連盟から集めた義援金を、全日本学生剣道連盟で取り纏め、東北学生剣道連盟宛に義援金が送られることが確認された。
- ・グラドルール改正案について

垂れネームに関しての別途資料の案が提案され以下のことが確認され承認された。

『同性で同一チームの中に同姓の選手がいた場合、両者に1文字加える』

4. 全日理事会報告について

報告者：月本翔太、木原資裕

平成23年度第一回全日学連「理事会・常任幹事会」議事録の報告がなされた。

財務委員会

(1) 部員登録数について

昨年度の最終部員登録数について報告があった。合計人数は11,416名で、内中四国学連は966名で前年度比11名増加であることが報告された。

(2) 地域連盟交付金について

各地域連盟の割り振りは審議の末、過去4年間の各連盟登録人数で均等に割り振ることが決定され、この交付金は今年度限りとする事が報告された。また、金額122万2995円(3/11)の入金が確認された。

(3) 平成24年度以降の全日登録費値下げについて

現在の1,800円については、元々世界大会などを行うために値上げされた経緯があり、現在の1,800円だと、毎年余剰金が出てしまい、大金を保持しておくことは財務体質が問われることになり、また、毎年地域連盟に返金するのも手間がかかるという事で、平成24年度以降一人あたり1,300円前後に値下げする事が財務委員会で提案された。

幹事会でその案について提案したところ、1,300円だと全日本学生剣道連盟の運営がぎりぎり、特別会計に回すことが出来ないのはということで、中四国学連では1,400円が妥当ではないかという意見が出された。中四学連からは、1,300円ではなく、1,400円にすることを提案することにした。

事業委員会

(1) オープン大会について

選手権のパンフレットにオープン大会の広告が載せられており、全日から広告金を頂いていることが報告された。またオープン大会毎年開催に関しては、北海道連盟、中四国連盟がそれぞれ1回ずつ開催した後改めて検討する事となったことが報告された。

(2) 選手権大会出場枠の配分について

登録学生の地域人数比率の変化はほとんど無いため、選手権出場枠の変更はなく、中四国学連は男子16名、女子9名であることが報告された。また次回の検討は5年後であることが報告された。

(3) 全日本学生剣道連盟60周年記念事業

1、十年間の記録誌の作成

2、記念式典の開催

3、海外交流派遣

実施時期は平成24年2月末から3月上旬が考えられている。参加者は、全日本選手権出場枠を基準に各地域連盟参加数を考慮し、全日本学生選手権大会ベスト4の男女並びに東西対抗戦両軍の優秀選手男女各2名の参加も検討している。中四国学連にも男女各2名参加枠がある。参加費用3割を各自負担、7割を全日本学生剣道連盟負担とし、実施の可否、及び内容について、6月まで検討審議を続け、7月の理事会で報告することが了承されたことが報告された。但し、3月の末に行われた全日本委員長会議で、地震の影響により、海外交流派遣については凍結するとの連絡があったことが報告された。

・7月の全日でのどのようになるか分からないが、中四国学連としては、派遣学生の選考方法を決めておいた方がよいとのことで、以下の選考基準が提案された。

案；選考基準1 中四国選手権大会で全日本選手権大会または東西対抗戦の出場枠を獲得したもの
選考基準2 今年度優勝大会において最優秀選手彰もしくは優秀選手彰を獲得したもの
その他 資質向上のため学連の連盟委員を入れるなどの意見もある

- ・今の段階で決めるのは難しいため選考委員会（学生理事含む）を設立し、選考委員会で推薦することとした。選考委員会は木原先輩と先輩理事2名と学生理事2名の合計5名。選考委員選出に関しては木原先輩に一任されることが決定した。
- ・自己負担分（渡航費用の3割、成田までの交通費、その他諸費用）が負担できるのかも問題。3割自己負担について、中四国学連を代表として行くわけだから、2割を中四国学連負担、1割を自己負担にするのがよいのではないかと提案がなされた。
- ・最終的には、7月の全日で内容がはっきりしてから詳しい検討に移ることとした。

審判委員会

- ・5月3日に特別審判委員会があった事が報告され、内容を文章で確認してほしいとの連絡があった。
- ・連盟講習会について、藤原先輩が講師に推薦された。不可能な場合は審判委員会から代理を立てる事が確認された
- ・竹刀検査要領について
中結いについての改訂について報告された。女子優勝大会で、アップなどで中結いが緩んだ竹刀が、竹刀検査時に没収され、使用可能な竹刀がチームに3本しかないというような事態が生じたことが報告された。そのような事態が生じないようにするため、検査時に中結いが緩い竹刀は締め直すように指導する事になったことが確認された。それは、学生を甘えさせるのではなく、混乱を避けるため、締め直す猶予を与えることであると確認された。

5. 全日本学生剣道オープン大会について

報告者:石井先輩

- ・競技会場の確保に向けて関係団体の調整（全国規模の大会であるため、広島県から早期内定申請書が出されるのを待っている状況）を行っていることが報告された。
- ・審判研修会を行う必要があり、新人戦時では試合会場数が少なく、赤字になる事が考えられるため、優勝大会での開催がよいのではないかと提案された。
- ・オープン大会開催年の新人戦は、常任幹事会での話し合いの結果、まだ決定ではないが、松山大学が主管となりたい旨、立候補があったことが報告された。

6. 次回の審判員割り当て及び個人戦における指導大学等の審判交代について

報告者：矢野宏光、山神真一

- ・竹内先輩より優勝大会審判員について鳥取は5名が厳しいので3名がよいとの希望があったことが報告された。
- ・優勝大会は8試合場で開催予定だったが、ETCの割引が終了することもあり、例年通り7試合場で行う事が報告された。
- ・県外から先輩方に来て頂く際、何名かで乗り合わせをして頂き、できるだけ交通費を安価にして頂くようお願いがあった。
- ・審判者割り当てに関して、矢野先輩にて決定し、メールにて報告することとした。
- ・選手権大会審判について、現在関係大学の試合は無論であるが、出身大学の試合の審判を行う場合に

審判交代を行うかどうかについて問題が提起された。試合者が、審判員の現在関係大学、出身大学の選手である場合は、審判員が交代することが決定した。

6. 平成22年度決算案、平成23年度予算案

報告者：石井博貞

- ・22年度決算から23年度予算案で登録人数が30名減っている。22年度まで登録費2,000円で行って来て、繰越金450万前後でバランスとれている。大会でのETC休日割引による余剰金を使用して、常任幹事校の研修費用に充てていたが、6月で休日割引が終わり、今後も常任幹事校研修の費用や、7月の常任幹事会における常任幹事校への交通費の費用増加で、個人登録費を3,000円に値上げ、一大学あたりの連盟登録費（15,000円）が廃止された。22年度決算としてはリーゼミのみ、会場の関係で40万近くの赤字が出たことが報告された。今後はなるべく公共の施設を用いる事が確認された。
- ・今回選手権大会において、松山市からの援助金値下げにより半額の20万円になったが、地元大学の広告金収入増額により補えた事が報告された。
- ・全日学連からの返金の一部を持って、竹刀ゲージを購入し、中四国学連加盟校に竹刀ゲージを貸与したことが報告された。
- ・平成22年度決算案、平成23年度予算案は拍手を持って承認された。

7. 全剣連「剣道有功賞」について

報告者：木原資裕

- ・各都道府県連盟から推挙されている学連OB、年齢、中四国での貢献度などを考慮して先輩方から推薦をもって決定することが確認された。8月初旬までに全日へ報告するため、7月の全日学生選手権大会までに、推薦がある先輩は、木原先輩までメールをしてほしいとの連絡があった。

8. 剣友会（中四学連・剣友剣道大会）の報告

報告者：小倉 肇

昨年の理事会において12月4日に岡山武道館で開催するとの報告をしたが、他競技連盟が会場を使用する関係で、日程が23年度12月18日に変更されたことが報告された。また実績資料などを元に用意を進めていくことが報告された。

9. その他

- (1) 石井先輩より、本年のオープン大会に出席を予定されている先輩方の確認があった。
 - ・全日学連担当理事のみ出席予定
- (2) 以前の大会で副審判長や審判員が、指導大学の応援を監督として監督席で行ったことに対して、規則では明文化されていないが、そのような行動はふさわしくないのではないかと意見が出された。学生もローカルの大会でないという意識をもって望んでいるため、本来なら監督と審判などの役職を兼ねるのはふさわしくないし、監督を行う場合は、役職に就くのを辞退すべきであるという意見が出された。
 - ・監督が審判員を行う場合は、監督代理をおき、試合の合間に試合場の後方から指導するようにしている。
 - ・暗黙の了解であるから文章にするほどのことではないと意見が出された。
 - ・審判者会議で審判長によりの通達として、中四国学連の大会においては、監督と審判員の役割に

ついて、一線を引いた形で対応することとすることで意思統一する事が決定した。

以上の議事を終え、本会は午後14時56分、議長が閉会を宣言して散会した。
上記決議を明確にするため議事録をここに記す。署名人はこの議事録が正しいことを以てここに記名及び押印する。

平成 23 年 5 月 14 日

中四国学生剣道連盟 第37回理事会

署 名 人 村 井 慎 治

署 名 人 菱 川 創 太



 次回 MTG

日 時：2011年8月27日

場 所：岡山市総合文化体育館・会議室（審判員控室）